

## <ストロベリークォーツのリング>

今では希少石にも入るこの石はカザフスタン産。現在は閉山。メキシコで少量産出。不定五角形は、指から斜めにのび、さす指によってもその方向は変化する。透明な暗赤色の中に輝く無数の光。最後のストロベリー、指に通すと斜め上に延び、角度により様々に見える形。大人の女性向き、楽しいリング。

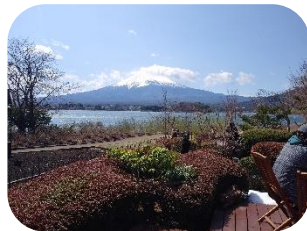


## <半日の極楽>

友人からの電話。“桜、見たい？” 即、“見たい” 黒く太い幹の頭上からの桜吹雪。揺れる枝とピンクの花びら。その合間に透けて見える濃い青空。眼下も点在するピンクの塊。友人曰く“今の山梨はどこもこうなのよ。背中丸めて仕事してる人にはごちそうでしょ” と。“ついでもっとご馳走してあげる” と、ついたところは河口湖。富士山と桜の壮大なパノラマを目の前でランチ。富士山はいつ見ても壮大で気品に溢れている。美味しいフランスパンのほかは何も要らない。スパークリングワインと桜と富士山。友人は下戸。曰く“シマダサンは簡単に喜ぶからラク。” ほんの半日の極楽でした。



八代ふるさと公園の甲州蚕影桜



富士山と桜のランチ

## <宇宙蜚の正体>～猫ビルからのレポート

宇宙船の周囲を彷徨うキラキラと輝く通称“宇宙ホテル”の正体が判明したとの話。宇宙船からの尿は機外に放出され、一瞬にして無数に輝く氷滴となる。それは宇宙船からの最も美しい眺めの一つ。夕暮れ時の宇宙船の周囲は透明で美しいキラキラに包まれ信じがたい美しさを見せる。と、書くのは“知の巨人”立花隆の宇宙本。勿論こんな簡単な話は少ない。しっかりしがみついて読み、更に再読。それでも最後に、何読んだっけ？が多い。

彼の仕事場は確か小石川の三角地。ビルの長い壁面には巨大な猫のカオ。今ではちょっとした名所になっているらしい。通称“猫ビル”室内は天井まで埋まる本に囲まれ、移動梯子で本を取り出す。難しいけれど立花本は楽しい。多分大半は理解できていないと思う。それでも、立花本に魅かれる。



## <ベトナム料理>

若い友人が“お誕生日おめでとう！”と来訪。三日早くトシとらせないで、と言いつつ歓談。シマダのエスニック好きの話から“じゃあ、ベトナム料理作ってあげる”。大喜び。ひとりで食べるのは勿体ないからどうせなら他の人にも喜んで貰おう、ベトナム美味しいパーティーはどう？と提案。友人は、“久しぶりに作れてうれしい！”と言ってくれたが、世はコロナ大猛威。しばらく延期。いずれご連絡します。

## <楽しい水晶たち>



CN-0238

ザックリカットしたローズクォーツ。  
なのに肌なじみは良い！



N-0513

かっこみ水晶の最後の作品  
ローマングラスと金のパイプがつなぐ